



## 第一章 大字 梨ヶ根 (なしがね)

梨ヶ根は、神岡町の中央部で中心街船津に南接する。高原川の支流である山田川(国道四十一号線画これに併行して走る)の左岸に位置し、集落や田畑は尾根の中腹に存在する。

地名の由来については、斐太後風土記には書いてない。袖川村誌には次のような意味の事が記されている。

「梨ヶ根は、往昔寺林村の枝村であった。(神明宮由緒記) たらばやしの北の方角、恰度山の腰に当たる屋根にややゆるやかな傾斜地があつて、その頂上に大きな梨の木が繁っていた。

たまたま隣りの村から二、三人の者がここへ入植して、梨の大樹近くに家を建て、荒地を開墾して住みつくようになった。

それ以来、人数が増え、家数も多くなつて「梨ヶ根村」と呼ぶようになった。」と。

梨ヶ根の「根」は、上宝の上地ヶ根・一重ヶ根や佐古の峰がね、山田の中根平・中根山等と同じで、屋根(山稜)を意味する。

神明神社には、町の無形民俗文化財として、山之神祭りがあり、茅の輪くぐり、湯の花神事が執り行われている。

### 一、字 穴谷 (あなだに)

穴谷は、語源辞典によれば、穴とは三方を丘陵に囲まれた地、または、穴状に入り組んだ土地となつてゐるが、現地は奥深い谷で昔から土地の人は穴谷と言つてゐる。今は神岡町の上水道の水源地になつてゐる。

